

＜弁理士インタビュー＞



三枝国際特許事務所

副所長 中野睦子氏

SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた取り組みを特許明細書に反映する動きが食品業界でも出てきている。その背景と現在の状況、今後の特許出願の活用など、三枝国際特許事務所副所長の中野睦子弁理士に話を聞いた。

【背景】

2021年6月、東京証券

取引所の「コーポレートガバナンスコード（CGC）」が改正された。CGCとは、上場企業が行う企業統治（コーポレートガバナンス）でガイドラインとすべき原則・指針を示したもの。その改訂ポイントは大きく4点で、その一つに

取引所の「コーポレートガバナンスコード（CGC）」が改正された。CGCとは、上場企業が行う企業統治（コーポレートガバナンス）でガイドラインとすべき原則・指針を示したもの。その改訂ポイントは大きく4点で、その一つに

SDGsに関連する特許出願数

が強い。今までの明細書はト

いなければ、大手企業との取

引の席にもつけない、となる

可能性は十分にある。また、

SDGsの取り組みは、企業

価値を上げるとともに営業の

武器になる。

いなければ、大手企業との取

引の席にもつけない、となる

可能性は十分にある。また、

SDGsの取り組みは、企業

価値を上げるとともに営業の

武器になる。

この回コード改訂版に、知

して点数化して企業をランク

権利化を目的としたものであ

ったが、これからは、それに

付ける動きが出てきている。このため、発明の説明書に、その発明と連した技術であること、企業

SDGsとの関連性の説明を追加してほしいという要望が書として活用していく動きが

今後より重視される技術、廃棄食材の有効利用、省エネ・CO₂低排出の食品製造技術なども注目されている。

【サステナブル視点での特許】
【サステナブル視点での特許】

特許明細書にもSDGs

サステイナブル視点の特許も注目

「サステナビリティ（ESG）」になつてくる。

△環境・社会・ガバナンス△

SDGsへの取り組みが、

要素を含む中長期的な持続可能

性）を巡る課題への取組

があり、その中に「中長

【特許スコア】

投資先企業選別のポイントにての活用】

SDGsの17の開発目標の

多くは食品と関連づけること

から

市場上場企業に関連すること

から

中小企業との関連】

SDGsへの取り組みが、

【特許明細書のSDGsとし

ての活用】

各企業の技術、そのほか培養肉や昆虫食

などを注目している。

SDGsを念頭に、明細書を作り

込んでいく必要がある。

【中小企業との関連】

今後、SDGsを念頭に、明細書を作り

特許スコアは、今後海外企

業との競争において、企業価

値を示す一つの指標になつて

いくと思われる。国も輸出を

後押しする中、中小企業も輸

出を強化しているので、知的財産とSDGsを関連させる

ことは次のビジネスに大きく

つながっていくと思う。